

**KWANSEI GAKUIN
GLEE CLUB
70TH
ANNIVERSARY
CONCERT**
1969

新 月 会

指 揮 亀 井 征 一 郎

男声合唱組曲 作 詩 中 勘 助

「中 勘助の詩から」 指 揮 多 田 武 彦

絵 日 傘

椿

四 十 雀

ほほじろの声

か も め

ふ り 売 り

追 羽 根

『あれから20年経った』

多 田 武 彦



昭和24年。当時私は旧制大阪高校の3年生であったが、学制改革のため旧制高校は今年限りで廃止されようとしている年であった。

既に新制大学が併行して発足していたため私達より一年下の人達はそちらの方に行ってしまっていて、学校には3年生だけが残っているだけだった。そんな状態でコーラス部活動も出来なかったある日、関西学院グリークラブ創立50周年演奏会の招待状が来ていた。「久しぶりに聴きにでも行ってみるか」と、軽い気持で北野劇場に出かけた。

私が男声合唱の美しさを教えられたのは、実に、この時である。その時の印象と感動とは20年経った今でも誠に生々しい。この時の印象と感動が、その後、私に男声合唱の指揮の勉強をさせ、男声合唱曲作曲の勉強に走らせた重要な動機の一つをつくっているといっても過言ではない。

60周年のときもそうであったが、今年70周年を迎えて、私の心に再びあの時の感動がよみがえっている。淡緑色と、いぶし銀に包まれた、深い神秘的な関西学院グリークラブの伝統的な音色が、私の身体のまわりで、「Old Kwansei」をはじめとするかずかずのなつかしい名曲を奏でている。

創立70周年記念演奏会、おめでとうございます。関西学院グリークラブから数々の薫陶を受けたものの一人として、今日の日をお祝い申し上げるとともに、今後のご発展をおいのり申し上げます。